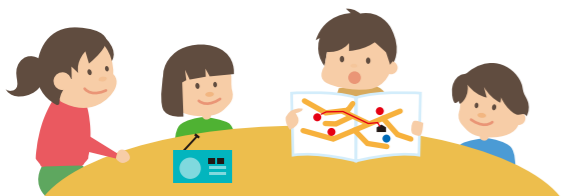


災害に備えて

家族で防災会議をしてみましょう

災害は家族が一緒にいるときに起こるとは限りません。いざという時に、あわてず行動できるよう家族で普段から話し合っておきましょう。また、災害に備えて家の中と外をチェックし、危険な箇所は早めに改善するようにしましょう。



CHECK

話し合いたい項目

- 家の付近の浸水状況や、土砂災害のおそれのある箇所の確認
 - 災害が起こった時の身の守り方
 - 家族間の連絡方法と、最終的に出会う場所
 - 災害別の避難行動（避難場所とそこに行くまでの経路及び経路上の危険箇所）
 - 家族一人ひとりの役割分担（家族の安否確認、非常持出品・備蓄品の準備・点検、隣近所への連絡など）
- ※乳幼児・高齢者・病人・妊婦のいる家庭はその避難方法も話し合いました。

我が家の安全対策を確認しましょう

安全と思われる家の中や家のまわりでも、災害時に避難や救助の妨げになる物や、落下物によるケガなどの被害を引き起こすおそれがあります。災害に備えて日頃から点検する習慣をつけましょう。

家の中の安全対策

飛散防止フィルムを貼るなどガラスの飛散を防止する。

家具の転倒、落下防止のため、金具などで固定する。

重い荷物は高いところに置かず、床に置いておく。

出入口付近には荷物を置かず避難口を確保する。

タコ足配線やコードを束ねて使用しない。

住宅用火災警報器、消火器を設置・点検しておく。

停電に備えて、懐中電灯や携帯ラジオと予備の電池を準備しておく。

家の外の安全対策

- アンテナ、看板などは針金などを使って補強しておく。
- 瓦の割れ、ずれ、はがれはないか。トタン屋根のめくれ、はがれはないか。
- 窓枠のがたつきはないか。ひび割れはないか。
- ブロック塀にぐらつきや亀裂はないか。
- 物干し竿、植木鉢、自転車などが風で飛ばされないようにする。
- 電気の引き込み線のたるみや破損があったら、電力会社に連絡する。
- 外壁に亀裂はないか。
- プロパンガスボンベが固定されているか確認する。
- 農業用水路や排水溝(下水溝)、雨どいのゴミや泥、落ち葉や土砂を取り除き、水はけをよくしておく。

普段から心掛けることが大切です

自主防災組織で地域を守る

自主防災組織とは、地域の皆さんが災害に対して協力し合う組織です。自主防災組織を結成し、地域防災活動を行うことで災害に強いまちづくりを目指しましょう。

平常時の活動

作ろう、参加しよう、育てよう！

隣近所や行政区などで、互いに助け合い、協力し合える体制づくりをしましょう。



みんなで学ぼう！

- 防災に関心を持ち、防災に関する知識を身につけましょう。
- 災害が起こったときに予想される事態や対応について話し合きましょう。



地域を点検しよう！

- 消火栓の上や防火水槽の近くに、違法駐車や放置自転車などの障害物はありませんか？
- 避難場所を皆さんが知っていますか？
- 避難経路に危険な場所はありませんか？



訓練をしよう！

- 初期消火訓練
- 避難所の開設・運営訓練
- 避難者の誘導訓練



災害時の活動

● 初期消火活動

身の安全を第一に考え、消火器などを用いた初期消火の実施

● 避難誘導支援

高齢者や障がいをお持ちの方々などへの避難誘導を支援

● 救出・救護活動

まず身の安全を確保し、その後被災者の救出や救護活動を支援

● 情報の収集・伝達

災害に関する正しい情報を収集伝達し、支援活動などを実施

● 避難所の運営

水や食料などの配給支援や炊き出しなどの活動

災害時に特別な配慮を要する方々への支援

高齢者や障がいをお持ちの方など、災害時において特に配慮を要する方々は、地域の皆さんの支援が必要となります。

支援するときに心掛けたポイント

- 相手を尊重する
- 無理な支援はしない
- 医療行為はしない

必要な支援だからと押し付けるのではなく、相手の意見に耳を傾け、それを尊重しましょう。無理な支援は思わぬ事故につながります。自分のできる支援を行いましょう。薬を飲む際の支援や応急手当てを除き医療行為は行わず、医師などの専門家に相談しましょう。

高齢者・病人

- おんぶ(または担架、リアカーなど)を利用して安全な場所まで避難する。
- 複数の介助者で対応する。

車いすを利用している方

- 階段では2人以上が必要。
- 上りは前向き、下りは後ろ向きにして移動する。
- 介助者が1人の場合、ひもなどを用意し、おんぶして避難する。

目の不自由な方

- 声をかけ、情報を伝える。
- 誘導する場合は、杖を持った方の手には触れず、ひじのあたりを軽く持ってもらい、半歩手前をゆっくり歩く。

避難について考えましょう

避難しようとするのは「あなた自身」です。過去の災害で大丈夫だったからといって安心できません。避難することで助かるのは、「あなたと家族の命」であることを強く認識してください。

避難行動 避難行動には大きく2つの考え方があります。

立退き避難 (水平避難)

▶ 安全な場所まで立退き避難

※夜間に大雨が予想される場合は、明るい時間帯に避難をすませておくことも大事です。

屋内安全確保 (垂直避難)

▶ 自宅内の高い場所へ避難

▶ がけや山から離れた部屋へ避難